

第四章 P T A ・農友会

第一節 P T A 活動

一 福井農林高等学校 P T A

社会情勢は、長引く不況、少子化、情報化など目まぐるしく変化しているが、特に青少年の間での、携帯電話や情報端末機能の高度化は、過度な利用や人間関係のもつれにもつながっている。そのような中で、家庭や地域の教育力が一層問われている。

こうした観点から、本校 P T A は終始、情報の共有を原点として、学校・家庭・地域の架け橋となる活動を展開してきた。この一〇年間の歩みを P T A 新聞の記事や歴代 P T A 会長の回想を交えて紹介したい。

(一) 災害に対して

平成一六年には、福井豪雨、新潟県中越地震など、本県または近県で甚大な災害が起こった。福井

豪雨の時には本校の生徒の何人かの家も災害に遭っており、それらに対し、義援金を募った。福井豪雨災害救



援に対しては九月に、新潟中越地震災害義援金は一月に、それぞれ三日間募金を募ったが、短い期間にもかかわらず、八九、四〇〇円、八三、六四〇円の義援金が集まり、県に見舞金を送った。(当時、吉田会長は県高等学校 P T A 連合会長も兼任していたため、県内各校のとりまとめとして県に見舞金を贈った)

(二) 北信越地区高等学校 P T A 連合会研究大会

平成一七年七月八日〜九日に福井市で開催された。

この大会では福井県 P T A 連合会の会長が、本校の吉田会長であり、大会の実行委員長となり大会を企画運営し、本校の P T A 役員も多数協力した。この大会には、北信越五県から、約一、三〇〇人の P T A 関係者が参加し、テーマ「自立と共生―輝く未来の主役たちのために―」のもとに研究協議が行われた。



懐かしいPTA会長時代

平成一五・一六年度 会長 吉田 英昭

創立一二〇周年記念おめでとうございます。私がPTAの会長を務めさせていただいたのは、平成一五、一六年度で、会長就任一年目には本校創立一〇〇周年記念行事の年にあたりました。

当時私は、というよりも、それまで私は、息子達が小中学校時代には、ほとんどPTA活動には関心が無く、せいぜい資源回収のお手伝いをするくらいでした。ところが次男が本校にお世話になる事になって、事態は一変しました。

まさか、この私がこの伝統ある福井農林高校のPTA会長になるとは、夢にも思わなかったことを昨日のことに思い出さずにはられません。人前で話をするのが苦手で、しかもこの私が、教育のことについて語るなど想像もできませんでした。でも、当時一緒にPTAの役員をしていたいた皆さん、そして先生方に、色々と助けていただきながら、そしてアドバイスをしていただきながら、どうにか二年間無事に？かどうかはともかく、勤めさせていただくことができました。当時お世話になったPTAの役員の皆様さんや先生方には本当に心から感謝申し上げます。

また、当時にPTA活動を盛り上げていくか、そして保護者会としての様に学校行事に参加し、お手伝いしていくことができるか、役員会で皆真剣に議論したものです。特に、農文祭のそばうち体験や、強歩大会、体育祭などへの参加などでは、いつしか会長という大役を忘れ、みんなと一緒に楽しんでいくことを懐かしく思い出します。

でも楽しいことばかりではありませんでした。それは、会長就任二年目の平成一六年七月一八日の早朝に突如降りだした福井豪雨です。皆さんもご存知の通り大変な被害が各地で起こりました。当時の生徒さん達の中にも、被害に遭われた方が大勢いました。でもその大変な中で、生徒さん達は互いに助け合いながら、そして自ら率先してボランティア活動に参加するなど、本当にあの時ほど、本校の生徒さん達を頼もしく思えたことはありませんでした。今思うと、本校でのPTA活動をさせていただいた三年間は、私にとって今後の人生の中で非常に価値のある、良い経験させていただいた三年

間だったかもしれません。それは色々な人との出会い、そして、価値観の違い、物の見方の違いなど、今までの固定観念が変わった三年間だったかもしれません。まさしく本校において息子共々勉強させていただいた三年間でした。今後ともこの福井農林高校というこのすばらしい大地から、すばらしい若者がどんどん巣立ち、羽ばたいていくことを心から願っております。

(三) 広報誌活動

毎年、PTA活動の啓蒙活動と情宣の目的で総務委員会が中心となり、「PTA会報」が作られ、二学期保護者会に合わせて発行している。平成一五年より表紙をカラーにするなど、工夫を凝らし編集作業を行っている。平成一七年には、前年度発行の会報が福井県高等学校PTA連合会主催の広報誌コンクールに佳作入賞を果たした。

(四) 北信越高P連研究大会発表

平成一九年七月、富山県で開催された北信越高P連研究大会において、松田会長が「心豊かに生きる人に育てー親と教師が連携して子どもを支えるー」と題して本校のPTAを紹介した。活動の中でも、「ふれあいトーク」と農文祭への参加を中心に発表した。一〇〇年の歴史に支えられた農業高校として、学校の特色を生かしながら学校と保護者が相互理解、信頼関係のあるPTA活動を展開していることやその大切さを熱く訴えた。



心豊かに生きる人に育て

平成一九年度 会長 松田 勇一

平成一九年度にPTA会長を仰せつかり、教職員・保護者の皆様の協力により、伝統ある福井農林高校生の成長を見守ることができたことを懐かしく思い出しています。

この当時、高校生の保護者は進路のことに関心はありましたが、通っている学校のことや生徒の学校での様子には関心が薄かったように思います。

このため、PTA役員で話し合い、農林高校の良さや生徒の一生懸命な姿をもっと見てもらおうと新たな企画を行いました。

同じ世代の子供を持つ親としての悩みを話し合う「ふれあいトーク」を学校で開催するとともに、ジャム作り、鶏卵採集、和太鼓など「福農ならではの講座」も新たに始めました。

講座では、教職員をはじめ生徒の皆さんも運営に携わっていただき、参加した保護者の皆さんからは、「福農に縁があったからこそ貴重な体験ができ、学校を身近に感じることができるようになった。」「学校での子供の様子が良くなるようになり、先輩親からのアドバイスも聞けてよかった。」と喜んでいただきました。

福井農林高校で過ごした三年間は、多感な高校生にとって、「人間として一番大切なものは何か」を肌で感じ取ることができたすばらしい時間・場所であったと思っています。

勉強のできる子、スポーツが長けた子、動物をやさしく育てられる子、顕微鏡も植物のように太陽目指して起き上がる子。

「生きる力」を身につけ、たくましく成長するために必要なことは、何でしょうか。

愚息も、今年就職しました。いまだにどんな仕事をしたいか迷っていますし、自立して生活できているとは言えないかもしれません。でも、どの方から、「しっかり挨拶のできるいい子ですね」と声をかけていただいています。福井農林高校にお世話になり、親と教職員がタッグを組んで子供を支え、暖かく見守ることができていたからこそ、校訓である「大地に生きる」という、人間として大切な基盤を育むことができたと思います。

この伝統を支えてこられた方々に感謝するとともに、生命の源である食と農の大切さを生徒に繋いでいく唯一の学校として発展することを祈っています。

二 家庭・学校の共通理解での生活指導

地区別保護者懇談会は、平成一一年から、保護者懇談会「ふれあいトーク」と名称を変え再出発した。参加者が年々減少する中で、地区別に行っていた懇談会を、学校で開催できないか、それには保護者にまず学校に来てもらうにはどうしたらよいかについて役員会内で話し合われた。その結果、まず、保護者に職業系高校でしか体験できないような「福農ならではの講座」を体験してもらい学校の教育内容を理解してもらってはどうか、その後には日頃の悩みを話し合ってもらおうという企画が決まった。講座の担当は、本校教諭・実習助手・生徒などがあつた。

平成一八年一回目は①バランスボールを使った健康講座、②夏野菜を使った旬の変わりジャム作り、③フラワーアレンジメントを作る草花講座、④卵を鶏舎から直接集め、洗浄・検査・パック詰めをする卵講座だった。回を重ねるごとに、内容も充実していった。教職員だけでなく、生徒が講座を運営したり、和太鼓講座では一回限りの講座に終わらせず継続した練習を重ね、本校農文祭で発表することもあった。いずれも普段体験することが少ないだけに、「楽しかった」「良かった」という声が多数聞かれ、子どもの通う学校を知ってもらおう良い機会になった。

続けて、保護者と教職員が話し合う「懇談会」では、毎年①校則、

携帯電話などの風紀面、②就職・進学の情報、学習意欲や態度のついて、③親子の会話・関係などに関連した話し合いが行われている。

「ふれあいトーク」

生活指導委員会委員長 松田 勇二

- 恒例となっている「ふれあいトーク」を7月22日に開催しました。先生と保護者が学校生活や子供たちの事を気楽に語り合う場として設けられたものです。
- 今年も保護者の参加を増やそうと、職業系高校でしか体験できないような「福農ならではの講座」を先生方の多大な協力により初めて実施しました。
- ① パランスボールを使った健康講座
 - ② 夏野菜を使った旬の変わりジャムづくり講座
 - ③ フラワーアレンジメントを作る草花講座
 - ④ 卵を鶏舎から直接集め、洗浄・検査・パック詰めする卵講座
- いずれも、普段体験することが少ないだけに、参加した方からは、「楽しかった」「でも良かった」「来年も是非続けて」という声が数多く聞かれ、子供たちが通う農林高校のことを知ってもらう良い機会となったようです。協力して頂いた先生方、お忙しい中ありがとうございました。
- 続いて、父兄が話し合いを行う懇談会に移りました。委員会では、20人以内の少数での分散会方式を取り入れて話しやすいようにしたり、事前には話し合いたいこと、聞きたいことをアンケートで把握し、

②進路・就職先の情報 学習意欲や態度

③親子の会話

初めて参加して要領を得ない方や奥ゆかしい方が多く、司会者の方は苦勞されていたようですが、後半はどんどん話が出され盛り上がりつつあります。

参加者からは、いろいろな親の考えが聞けて参考になった「早くから進路のことを子供と話し合いたい」と思った「校則について先生も良く指導されていることがわかり、家庭がしかりしないといけない」と思ったなどの声がありました。一方、時間が短かったとかテーマ別・学年別がよいのではとの反省もありました。早速、反省点を含め懇談会の内容を全父兄に配布したり、学級PTAの中でも親にできることなどを話し合っていたりするような働きかけています。

PTAの行事もマンネリ化する中、新たな試みも好評のうちに終えることができ感謝しています。子供たちはいろんな経験から成長することが多く、親もともに学びながら支えていける、いいなあと感じています。協力本当にありがとうございます。



(一) 冷房設置について

平成一七年より、普通教室の冷房化に関して、意識調査を基に役員会・学級評議員会で設置に向けて話し合いがもたれた。設置にかかる費用の見積もり、電気代の予想使用料を想定して、生徒からの徴収額などが検討された。

平成一八年のPTA総会時に議案を提出し、承認を得て設置となった。その後、平成二三年に、普通教室以外に調理室に冷房が設置された。

七月から九月に、気温二八度を超えた場合に使用され、生徒の学習能率は上がっている。

冷房設備の設置

平成一七年度 会長 瀧波 宏二

私が、PTA会長を仰せつかったとき、そんな大役が果たせるだろうかという不安で一杯でした。が、大切な子供たちのために、できることを精一杯させていたどころという決意で、引き受けさせていただきました。PTA役員の皆様、西田校長先生をはじめ大勢の先生方、事務職員のスタッフに支えられて、無事務めさせていただきましたことに、感謝しております。

一番の思いは、長年の懸案でありました普通教室の冷房設置です。役員会やPTA総会で、幾度も話し合いをさせていただきました。岩崎事務長や加藤委員には、設計・資金・入札・設置後のメンテナンスのための資金積立の設定など、様々な問題にご尽力いただきました。皆様の協力を得まして、生徒たちのよりよい学習環境作りに貢献できたことをうれしく思っております。

歴史のある本校では、層の厚い卒業生の活躍によって支えられています。生徒たちが勉学に励み、心身を鍛練して、先輩の築いた業績をさらに発展していくことを望んでいます。

最後になりましたが、生徒たちの更なる活躍と本校の益々の繁栄、皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げます。

(二) その他の活動

本校の学校行事に対して、PTAには様々な協力を得ている。各行事への出席だけでなく、強歩大会での給茶接待や活動参加である。いくつか紹介する。

1 農文祭でのふるまいそば

一〇〇周年記念行事を機に始められたPTAによるそば打ちは、本校の主なPTA活動の一つとなっている。例年七〇名近くのPTAを動員し、八〇〇食近くのそばを振る舞っている。そばを食する生徒および、外来者からは毎年好評を博している。ここ一〇年の活動に中では、伝統食を見直す活動の助けにしたいと、「里芋の煮っころがし」「たぐわんの煮たの」を提供した年もあった。(平成一八〜二〇年)。また、朝早くから活動に参加してくださるPTAのために、手伝いの合間におにぎりを作ることも加わった。(平成一九年より)

一〇月中旬の練習会、農文祭前日の仕込み、および会場準備、そして当日と多数のPTAが活動に寄与している。



「農文祭」

総務委員会委員長 坂本ひと美

今年の春、為永先生の食育に関する講演会を行いました。経済成長と共に効率や便利さを求めて食生活の根本をおろそかにし、「食の不安時代」を迎えています。今大事な事は、日本型の食事を損なう事です。そのひとつに郷土料理があります。その土地でその季節にとれるものを、昔ながらの料理法で調理する事が健康づくりの第一歩です。今年の農文祭では福井の郷土料理の中の「里いものこる煮」を作り、醬様に食して頂きました。いかがでしたでしょうか。私達は、福井のたくさんの郷土料理を次世代へと伝えていかねばならないと思います。

PTA活動を通して

平成一八年度 会長 北村 和彦

わたくしは、母校であります福井農林高校に二人の子供たちがお世話になり、七年間PTA活動をさせていただきました。そして、娘が三年時の平成一八年度にPTA会長をお引き受けしました。平成一〇年、息子の入学と同時に役員会で活動させていただきましたが、役員の方々が実に熱心で引きこまれていきました。そんな中で、「農」ある暮らしの豊かさを親子で感じよう」「農業高校らしい取り組みをしよう」「多くの保護者が学校に集い、子供たちの様子を見ながら情報交換する機会を持つ」という動きが高まり、そば道場とふるまい蕎麦が立ち上がりました。当時世間では、和歌山毒物カレー事件など、食の安全性が問われる問題もあり、当日を迎えるためにはいろいろなハードルを越えなければなりませんでしたが、慣れない手つきながら出来上がった蕎麦に歓声があがり、早朝から仕込んだ蕎麦も大勢のお客さんに食べてもらい、笑いつばいで終えることができた喜びを今も忘れることができません。

そして、長く福井農林高校のPTA活動に関わらせていただき、様々な活動を通して、子供たちの親として、ひとりの社会人として、地域に生きる人間としてのあり方や夢を語り合える多くの仲間を得ることができました。親として再び母校に入学させていただき、かけがえのないものを学んだのです。高校生活で得られた友は一生の友となると申します。子供たちには有意義な学生生活を送り良き友を持つてほしい、日頃の学ぶ姿を間近に見ながら我が子にエールを送りたいと思うのは親として願ひであるはずですが、会長を引き受けた私の使命は、労を惜しまず、互いに協力して何かを成し遂げることの大切さを、親同士が自らの活動を通して伝えていくことであると考え、農文祭での「ふるまい蕎麦」の手伝い、新企画であった保護者の学習体験、また、体育祭などの学校行事に一人でも多くの参加が得られるよう努力しました。役員の方々の惜しみない協力を得ることができ、感謝の気持ち一杯で大役を成し遂げることができたことを懐かしく思い出します。

人は様々な出会いの中で学び、考え、自分を作っていくと言います。今後益々、多くの保護者が学校に集い、子供と共に学び、成長するPTA活動であってほしいと願います。

学校創立一二〇周年を迎えるにあたり

平成二〇年度 会長 笠松 清司

学校創立一二〇周年を迎えるに当たり、心よりお慶び申し上げます。

高校でのPTA役員をお受けしたのは、後にも先にも農林高校だけですが、農友会の役員の方々や卒業生の顔ぶれを拝見しますと、錚々たる方たちが名前を連ねていることに驚きとともに、その歴史の深さを感じさせられました。

PTAの役員をしていると、PTAの会合あるいは学校行事に参加する機会が必然的に多くなります。私が会長をお引き受けしていた時も、大なり小なりの問題はありましたが、保護者間でも意見の相違や考え方の違いなどは当然あるわけで、男親・女親でも違ってきます。そのような意味では、ある問題に対しての答えを出すのが非常に難しくなってきたように思えました。私自身も大いに勉強させられました。

学校の校訓は「大地に生きる」ですが、普通科高校にはない「らしさ」があり、この学校での教育の根幹を成していることは言うまでもありません。つい数年前までは高校生の就職率が一〇〇%近かったものが、今ではそれもままならない状態になっています。

社会へ出るにあたっての必要な教育は当然として、このような時代にこそ求められる「たのもしさ」を植え付ける教育理念と共に実践しているのが本校であり「大地に生きる」という校訓に凝縮されていると思います。

学校創立時から脈々と受け継がれている校訓と共に、未来へ突き進んで行かれることをご祈念申し上げます。



2 就職希望者に対する面接指導

進路指導委員会のメンバーが中心になり、九月から始まる就職試験に対し、面接指導を行っている。二四年からは、より実際の面接に近づけるために、福井東ロータリークラブの方にも協力いただいている。



3 保護者による農文祭での太鼓演奏

前述の「ふれあいトーク」で和太鼓を体験した保護者からの発案で、一五名の有志が集まり、二ヶ月間の大特訓を経て、見事農文祭にて成果を披露した。



この活動は、平成二一年に引き続き二二年も実施した。

4 強歩大会での給茶接待および強歩参加

毎年、数カ所の給茶所にて、生徒への給茶接待を実施している。保護者にとつては、家庭とは違った生徒の一面を垣間見ることが出来る。また、中には、生徒とともに歩く方もおり、行事を盛り上げている。



5 インドネシア留学生ホームステイ受け入れ

インドネシア、タンジュンサリ高校とは、平成二四年のみ一週間の滞在だったが、それ以外は、隔年ごとに三ヶ月近く学校に滞在する交流活動を行っている。平日は、学校の寮で生徒とともに生活するが、週末は、PTAや教員宅にホームステイし、日本の生活を体験した。



PTA活動の思い出

平成二一年度PTA会長 中村 潤一
創立二二〇周年おめでとうございます。ここからお喜び申し上げます。
私がPTA会長を務めさせていただいた、平成二一年度は大変な一年でした。
経済成長率実質マイナス、衆議院選挙で民主党が圧勝、裁判員制度のスタートなど、日本という国が大きく変わろうとした一年でした。

そんななかPTAの活動として、総務委員会を中心に農文祭への参加（そは打ち他）、会報発行準備、生活指導委員会を中心とした保護者懇談会「ふれあいトーク」、秋の交通安全街頭指導、進路指導委員会を中心とした就職希望者面接指導、進路説明会の設営などを行いました。とくに思い出に残っているのは、農文祭でのそば打ちです。事前のそば打ち練習会、当日のそば打ち調理、片付けなど、本当に多くの保護者の方々にお手伝いいただき、充実した時間を過ごせ、反省会の時には「終わった！、喜んでもらえた！」という達成感を感じたことを昨日のように思い出します。

また県高P連のさまざまな研修会、全国高P連大会、北信越地区高P連研究大会など、県内外で行われたいろいろな研修会にも参加させていただきました。

PTAとして学校行事に積極的に関わることによって、また様々な研修に参加することによって、家庭や学校で子供たちにどんな問題が発生しているかを知り、また保護者、学校関係者として諸問題にどう取り組むべきかを考える非常によい機会をたくさん得られた思い出があります。

最後に、農林高校の校風、生徒達の純粋さ、先生方の教育に取り組む姿勢、PTAの皆様の熱意、このすばらしい伝統をこれからも守り続け、育てていきたいと願っています。

福井農林高校の暖かさゆとり

平成二二年度 会長 酒井 宏政

私がPTA会長を務めたのは平成二二年から一年間でした。一貫して家族的な暖かい雰囲気でした。これはひとえに共に役員を務めた皆さん、そして日頃生徒と向き合いご指導に当たられている教職員のみさんの努力、熱意、お人柄等、お金で買うことができない人が人に与える影響力がなせるものではないかと感じています。

そして、福井農林高校の良さは、この暖かさゆとりではないかと感じています。経済優先、資本主義、弱肉強食がまかり通る今の時勢の中では、暖かさゆとりはあつてはならない甘さだと言われかねませんが、私は人を育てるのに不可欠な要素だと思います。

お金で買うことができない大切なものが、福井農林高校の教育にいつまでも受け継がれ、心豊かな人材を輩出し続けることを期待しています。

三 情報の共有を通して

(一) グリーンメールの活用

平成二二年から、学校教育への理解を深め、家庭の教育力を高める活動として、学校から毎月、月初めに情報紙が発行されることになった。以来、入学式以降、毎月学校の様子を保護者にお伝えしている。HP上にも掲載し、保護者のみならず様々な方に発信している。この活動を通し、心のキャッチボールを展開している。



創立二二〇周年を迎えるに当たり

平成二三年度 会長 木村 徳明

この度、創立二二〇周年を迎えるに当たり一言お祝いを申し上げます。

そしてまた、校長先生をはじめとする教職員の皆様、農友会の皆様、PTA会長をはじめとする役員、全ての皆様、実行委員会の皆様おめでとうございます。

私が、PTAの役員をさせていただきましたのは、一年生の入学と同時にです。ある先輩からの一声に始まり、三年後は会長という、敷かれたレールにでも乗っているかのように楽しく学校に通わせていただきました。今までPTAという世界は皆目検討がつかないなかで、子供と同じ目線、そして地域の大人としての目線から外れることなく出来るだけ学校行事に参加させていただきました。公式行事はもちろんのこと、子供の部活動を通しての様々な経験など、恥ずかしい話、今まで知らない世界ばかりの連続でした。ただそんな中で、いろんな場面に真剣に向き合うことで新しいことの発見だったりとか、また県高P連等の会議などに出席することでいろいろなことを教えていただいたり、そういった積み重ねにより、私なりにPTAとしての考え方、係わり方が構築され、一年間の活動が変わっていったと思います。いまは、「いじめ」の問題だったり、クラブ活動に対しての「体罰」が問題となり、競争なのか教育なのか問題視されていますが、PTAとしても真摯に受け止める機会といろんな場面で語る機会をもち、生徒、学校、保護者（農友会）と三位一体となってこれから先の一〇年、二〇年を考えていただきたいと思えます。最後になりますが、学校再編という大きな変化が待っています。いつまでも福井農林高校らしく、「大地に生きる」という大きな精神を持ち続けながら新しい未来に向かって進んでいきたいと思えます。

貴重な経験をしたPTA活動

平成二四年度 会長 森石 美由貴

平成二四年度のPTA会長を勤めさせていただきました。森石でございます。福井農林高校初の女性会長という事で周囲の皆様にも本当您にご心配をおかけしたと思います。自分自身もとても十分に勤められたとは言いがたく、これもひとえに先生方や一緒に活動していただいた役員の皆様のおかげでなんとか任期を乗り切ったと強く思う次第でございます。本您にありがとうございます。

ただ、会長職というものは決して大変な事ばかりではなく、というよりもむしろ楽しい事ばかりが起こる一年でもあり正直とても充実した一年間を過ごさせていただきました。学校に赴く機会も通常の親御さんよりも多く、可愛い生徒たちと触れ合う機会もより多く持たせていただき、なんだか得した気持ちでもあります。こういう事でもないとなかなか学校に来る機会もありませんのでこれはまさに役得でした。

また、高等学校PTA連合会の役員も合わせて勤める事となり、こちらも通常の生活では得難い経験を積ませていただくことができました。普通の生活では知己を得る事などとてもできない方との出会いや、他校の会長さん、役員さんとの交流など私の今後の人生に対して、きっと大きな影響を与えるであろう経験をたくさんさせていただきました。

私自身、小学校・中学校と、PTA活動というものに対して非常に抵抗があり、できれば逃げたい、関わりたくないとひたすら避けて通ってきた道でしたが、高校に入って貴重な経験をさせていただいた事、今では本您に良かったと思います、またそういう機会を与えてくださった学校関係の皆様には本您に感謝しています。来年、下の娘が高校に進学することになりますが、また何か機会をいただけるならば、PTA活動に関わって行きたいと思うようになります。

貴重な経験を、本您にありがとうございます。福井農林高校の今後ますますのご発展を心よりお祈りしております。



PTA活動に感謝

平成二五年度 会長 尾川 正巳

本校は一八九三（明治二六年）に創立されてから歴史と伝統を重ね、「大地に生きる」を校訓に生徒、学校、保護者、地域が連携を続け、一二〇周年を迎えることとなりました。PTA活動も保護者と教職員の方々のご協力のもとで、各行事が行われています。「ふれあいトーク」では、本校ならではの講座を保護者の方に受講いただき、講座の後には学年、学科を交えて、フリートークで質疑を交わり、参加された方々は有意義な時間を過ごされています。「農文祭」では毎年、そば打ちの練習会を開き、当日、五〇余名のPTAの方々のお手伝いをいただきまして、おろしそばを七〇〇〜八〇〇食振る舞います。

会員の皆様は、お忙しいところ、また、そば打ちは重労働にもかかわらず手際よく、楽しく活動されています。このような会員の皆様のPTA活動に取り組み姿を拝見するにつけ、心から感謝の思いでいっぱいになります。今後もしこうした諸先輩方が実践されてこられた、温かく、笑顔の絶えないPTA活動を今後も継承して参りたいと思います。

また、この度の一二〇周年を機に、平成二六年から生徒たちの制服が、一新することとなりました。新たな制服とともに、福井農林高等学校の誇りを持って、歴史を刻んでいって欲しいと思います。そして、本校とPTAがこの先、一三〇年・一五〇年と益々の発展をされますことを心から御祈念申し上げます。

(二) 生徒・保護者・教職員三者の講演会

平成二二年より、広く保護者や地域住民の参加を呼びかけた講演会はその後も継続しており、三者が情報の共有を通して相互のコミュニケーションを充実させることをねらいにしている。春のPTA総会時に企画され、子供たちのおかれている社会状況を知り、家庭での親子の会話も深めている。



平成一六年度 「真心セールス三四年」 伏里 健治氏
 平成一七年度 「親子で考える将来と仕事」 中里 弘穂氏
 平成一八年度 「日本の伝統食こそ心と体を癒やす」 為永 麻記子氏

平成一九年度 「牛の尻から世界が見える」 山崎 洋子氏
 平成二〇年度 「『未来』そして『夢』へ」 大廻 政成氏
 平成二一年度 「真心セールス日本一」 伏里 健治氏
 平成二二年度 「農は地球を救う！」 井上 弘明氏
 平成二三年度 「道しるべ」 藤井 宏海氏
 平成二四年度 「東日本大震災から学ぶ」 山田 裕治氏
 平成二五年度 「農業高校からお笑い？意外な共通点」 クレヨン

(三) その他

・PTA会則の一部改正について
 平成二一年度のPTA総会において、教職員のPTA会費徴収について審議・了承された。少子化の影響もあり、クラスの募集定数も徐々に減少している。そこでPTAの経費も減少することから、会員である教職員から年額三、〇〇〇円を徴収する事を決定した。

歴代PTA会長

初代	会長	山形 寿	昭和二八年～三〇年
二代	〃	山本 宇平	昭和三一年
三代	〃	今村三太夫	昭和三二年～三四年
四代	〃	辻端 彦一	昭和三五年～三七年
五代	〃	川端 才市	昭和三八年～四〇年
六代	〃	安実 清嗣	昭和四一年～四二年

七代	〃	松倉 權作	昭和四三年	三代	〃	德永 則行	平成一年
八代	〃	田辺 与平	昭和四四年	四代	〃	土田 弥市	平成二年
九代	〃	後藤 義一	昭和四五年	五代	〃	上嶋 善一	平成三年
一〇代	〃	谷口 茂	昭和四六年	六代	〃	若島 俊彦	平成四年
一代	〃	吉田 喜一	昭和四七年	七代	〃	吉田 英昭	平成五年～平成六年
二代	〃	徳永 多道	昭和四八年	八代	〃	瀧波 宏二	平成七年
三代	〃	坂本 勇	昭和四九年	九代	〃	北村 和彦	平成八年～平成九年
四代	〃	稲木 昭	昭和五〇年	一〇代	〃	松田 勇二	平成九年
五代	〃	瀬戸 正輝	昭和五一年	一代	〃	笠松 清司	平成一〇年
六代	〃	木村 連男	昭和五二年～五三年	二代	〃	中村 潤一	平成一一年
七代	〃	岩佐 光雄	昭和五四年	三代	〃	酒井 宏政	平成二年
八代	〃	笈田 完二	昭和五五年	四代	〃	木村 徳明	平成三年
九代	〃	辻岡 彰	昭和五六年～五八年	五代	〃	森石 美由貴	平成四年
一〇代	〃	清水 静治	昭和五九年	六代	〃	尾川 正巳	平成五年
一代	〃	砂村 義隆	昭和六〇年				
二代	〃	辻 実	昭和六一年				
三代	〃	青木 政志	昭和六二年				
四代	〃	石橋 主計	昭和六三年				
五代	〃	吉田 正一	平成元年				
六代	〃	室 善他家	平成二年				
七代	〃	山本 善信	平成三年				
八代	〃	宮谷 敏行	平成四年				
九代	〃	道端 茂昭	平成五年～平成六年				
一〇代	〃	高原 正昭	平成七年				
一代	〃	田畔 博人	平成八年～平成九年				
二代	〃	土田 弥市	平成一〇年				

第二節 農友会

創立一一〇周年記念式を讃える

母校創立一一〇周年記念式典より

福井県農友会会長 山崎 善弘

本日、西川福井県知事をはじめ、各界の方々のご臨席を仰いで盛大な式典が開催できることを心から嬉しくお祝い申し上げます。本校の卒業生一万二、〇〇〇名余りを代表してご挨拶を述べた機会を得ました事は真に光栄なことと感激いたして居ります。明治生まれの大先輩二五名のうち一名を式場にお迎えし、一〇〇歳を越えた室谷保さんも喜びの言葉を述べられます。又、親子三代に亘って本校を卒業された徳永・木村・武沢さんの健在者を顕彰できることも真に喜ばしい式典のこのうえない証でございます。

一一〇年の出来事を思い返してみますと日清・日露戦争、第一次・第二次の世界大戦があり、日本が欧米諸国と肩を並べるまでに至った大躍進・発展の時代、そして終戦戦後の奇跡的な復興、実に多くの進歩と変化が起きてきました。戦後の農地解放政策が実施されて大地主階層が消滅、民主主義体制から高度成長経済の崩壊はいずれもそれ以前にの価値観、歴史観を一転させる劇的なものでした。只今、隣国である中国の比較的高品質で非常に低価格の農産物に追い上げられてわが国は大きな変革を求められています。「物作り日本」として成長・発展してきた諸産業が大きな転換を求められて居ります。その基盤を築いてきた実業教育・産業教育の制度が根本的に見直しが強く求められて居ります。そのような観点にたち、県教育長に「福井県立大学と我が母校福井農林高校との交流」並びに「芦原にある県立大学・生物資源開発研究所の活用」更には「バイオ教育施設の拡充に対する助成」

の陳情を致しました。

その要請が早速聞き届けられて、今春より交流が始まると共に「助成の内示」も頂戴したことを伺いこれまた喜ばしいことと存じます。

本校が二一世紀を目指す農業教育に大きな光明となることを確信いたします。又、全国各地で展開する「さくら堤」の例にならって農友会でも九頭竜川本流とその支流の日野川の合流地点の右岸堤防沿いに記念植樹をいたします。在校生にも手伝っていただきます。既に明治橋下流の右岸には何百本もの桜が植えられて幾年かを経過しています。今回はそれに引き続いての事業となります。

桜はこれからの幾星霜、自然の猛威に耐えねばなりません。バイオの前途にも困難があるうと思えます。辛さや苦しさを逃れることなく「大地に生きる」の長い、根強い努力が求められます。我が福井農林高校が「大地に生きる」校訓に基づいて桜の若木のような前途ある有為な人材を育て、世に送り出す役割を今後とも担い続けて欲しいと期待して居ります。

教職員を初めとする学校当局、地元の関係各位、農友会の皆さまに、そして何よりもご列席のご父兄を始めとするPTAの皆様方に、そんな若木が立派に育ち、見事な花を咲かせるようになるまで「それを見守り、はぐくむ心配り」をいただきます。願ひいたします。

最後に、ご出席下さいました明治生まれの大先輩の方々、健康でようこそ今日の日を迎えられた喜び、又ご参会の皆様のご多幸を、そして母校の益々の発展を心より祈念いたします。

平成一六年度

●平成一六年度総会（六月一九日）

・記念講演 山崎 善弘氏（農林四〇回）

「台湾を切り開いた日本人技術」

・懇親会実行委員長 野坂 成弘氏（高志四回）

・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

母校農産物お楽しみ抽選会

●平成一七年度総会（六月二五日）

・記念講演 屋敷 勇氏（高志三回）

「少子社会を考える」

・懇親会実行委員長 小木 照良氏（農高一回）

・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

・役員交代

・会長交代 山崎 善弘氏から清川 忠氏へ

・事務局長交代 西澤 薫氏から坂下 貞雄氏へ

・退任に当たって

前事務局長 西澤 薫氏（農林四九回卒）

平成一四年六月、前任から受け継いで四年間、会員各位のご支援で
大過なく勤め終え、後継を託す事ができて心から喜んでおります。

立派な会館が出来、専任事務員を置くなど職中には夢の中の又夢
でしたが、それが現実となり会の発展にこの上ない喜びでした。

在職中から同窓会事務に携わってきた一人として回顧録をひもどく
思いでこの仕事につきました。しかし、既に七〇歳を越え、そのうち
適任者が見つかったら交替をと思っていたのでとても安堵いたしました
ります。この間の思い出を一筆したためて退任の弁といたします。

○会報取材

会員の訪問記は、会館に立ち寄って下さった縁で返礼も兼ねてお訪
ねして、昔日の思い出、只今の暮らし向きをお聞きして掲載しました。
高浜町在住の一瀬和夫さん（昭和五年卒）は、今年も総会に出席でき
たとの「命の尊さ」を喜び、戦死した会員を数えて冥福を祈る信仰に。
特攻隊長だった伴岩男さん（昭和一四年卒）はお会いした時に「私は
余命幾許もない」と切り出されびつくりしておりましたところ、あの
戦争をくぐり抜けてきた「命の尊さを」。森義夫さん（昭和一八年卒）
は、バイオの真髓を母校に伝授される現役の活躍姿に。他にも巡り会
えた先輩、後輩のお話しに大きな感動をいただきました。

○総会の開催

毎年六月恒例の総会、満堂の盛会に感激をいっぱい味わいました。
半年前から七〇、六〇、五〇、四〇歳代の方に当番になった主旨、委
員委嘱、会員への呼びかけ、会合出席、参加協力という周到な準備が
あつてはじめて当日の成果を見ることの現実、在校生の力のこもった
演技を鑑賞して感激したと帰っていかれる姿をみて、来年もまた力一
杯頑張ろうという意欲を経験しました。

○事務局の活動

支会・分会の開催に出席して会の模様を会報に報告するのは容易で
したが、予算、決算は会の組織が大きいだけに、精通しない私には大
変な労作でした。一一〇周年の桜植樹記念事業は、植樹場所の堤防が
完成せず、当日までハラハラいたしました。基金の募集も目標に今一
歩でありながら、予算の収入、支出は裏打ちされなければならず苦勞
もひとしおという体験でした。

会の盛衰は、会費の集まり具合にあり、その願いは会報によって支
援への志を仰ぐという誠に素朴なお願いに頼る他ございませんでした

が、早速お応え下さって送金下さった会員への謝意、領収書の送付には本当に勇気づけられ天にも昇る心地でした。思い出は尽きませんが、会長をはじめ激励下さいました各位に心からのお礼いたします。ありがとうございました。

事務局長 坂下 貞雄（農高一回卒）

創立一〇〇周年を契機として建てられた会館「大地」は見事な建物で母校に寄せる心の賜でございます。会館が出来て二〇年、運営・管理・会報発行・名簿改定・会員相互の親睦の架橋となってきました。会議はもとよりクラス会・支会・分会に利用されてこそ価値があります。また、生徒達の特別活動の場として、合宿にも利用されその役割も充分に果たしております。卒業生の数も一万名を越え親睦活動も増えて今日の対応には誠に適応した建物でございます。この会館がもつともっと利用され後輩への道標と受け継がれてゆくことを念じながら一層のご支援、ご鞭撻よろしく願ひいたします。

昨年の七月一日より、農友会の活動を支えてこられた西澤薫先生（前事務局長）が一身上の都合で退任された後を引継ぐことになりました。会員の皆様方のご協力を得まして、微力ではありますが母校のために精一杯務めさせていただきますので、よろしく願ひ申し上げます。同じ高校に学んだメリットを共有し、農友会の会員同士の交流をもっともっと増やしていけたらいいなと願っています。その要となるのが各支会・分会の活動ではないかと思っています。大いに期待をしています。

●平成一八年度総会（六月一七日）

・記念講演 橋本 文鷹氏（農高二回）

「愛知万博余話」

・懇親会実行委員長 林 利二氏（農高二回）
・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

●平成一九年度総会（六月一六日）

・記念講演 伏里 健治氏（農高九回）
「真心セールスで日本一」

・懇親会実行委員長 持田 英俊氏（農高三回）
・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）
母校農産物お楽しみ抽選会
スコップ三味線演奏

●平成二〇年度総会（六月二一日）

・記念講演 山田 日耀氏（農高一回）
「脚下照顧」

・懇親会実行委員長 野路 武夫氏（農高四回）
・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）
母校農産物お楽しみ抽選会
・役員交代
・会長交代 清川 忠氏から木村市助氏へ

●平成二一年度総会（六月二七日）

・記念講演 豊田 三郎氏（農林二七回）
「古里の山河を描き続けて」

・懇親会実行委員長 藤田継一郎氏（農高五回）
・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

母校農産物お楽しみ抽選会

●平成二二年度総会（六月一九日）

・記念講演 野路 武夫氏（農高四回）

「スポーツを通して学んだこと」

・懇親会実行委員長 杉本 俊一氏（農高六回）

・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

母校農産物お楽しみ抽選会



・平成二二年一〇月三〇日 山崎善弘様には薬石効なく永眠された。

元農友会会長 山崎善弘氏（名誉会長）を偲ぶ

福井県農友会 会長 木村 市助

謹んで福井県農友会名誉会長 故山崎善弘様の御霊前にお別れの言葉を申し上げます。訃報に接する数日前に、入院先の病床で書かれたと思いますが、おハガキをいただきました。母校の福井農林高等学校のことや、今後の農友会のことなどが書かれてありました。

一ヶ月前に再入院されたことはお聞きしておりましたが、快方に向かわれるものと信じておりましたその矢先、悲報に接して自分の耳を信じることができませんでした。今もって信じ難い思いであります。

こうしてご遺影の前に立ちますと、名誉会長様の在りし日のお元気な姿が、そして声が目のあたりに浮かんでまいります。

名誉会長様が歩まれた道は、ただ建設業界や経済界だけではありません。母校の一〇〇周年を契機として、名誉会長様の主導のもと、農友会の活性化のために会報の発行や、各地域に分会を設置して色々な事業も熱心に取り組まれました。特に、福井県農友会の発展や母校の発展のために、鋭い直観力と視野の広さ、そして、驚くばかりに豊かな交友関係によって、言葉には尽くせぬ大きな功績と深い足跡を残されました。

山崎名誉会長様には、だれよりも深い母校愛により母校福井農林高等学校に物心両面にわたる温かいご支援をいただきました。同窓会長としての生徒への訓話をはじめ、昭和三八年から幾度もご寄付いただいた生徒用図書や、郷土芸能部発足に際しての太鼓のご寄付など、福井農林高校の今を支える大きな土台を築いていただきました。

農友会の運営にあたっては、これからも相当額の資金が必要であろうということで、農友会の財源確保と母校の福井農林高等学校の教育活動支援のためにと、何回も寄付をしていただきました。もちろん現在も有効活用させていただいているところでございます。

また、会員の親睦としてゴルフも奨励していただきました。名誉会長様が創設されました年二回のゴルフコンペも今では農友会の事業として定着していますし、会員の皆さん方から大変喜ばれているところでございます。

名誉会長様自身も必ず参加され、昨年の六月のコンペにも参加されました。まだまだ、若いものには負けんぞ！」と元気なプレーを見せておりました。しかし、その元気なお姿を拝見することはもう出来なくなりました。残念でなりません。

このように長年にわたり、福井県農友会の運営と発展、母校の福井農林高等学校の発展にご尽力された数多くの功績は誠に大きく、改めて心からの感謝とお礼を申し上げる次第でございます。

母校の福井県立福井農林高等学校は、まもなく創立二二〇年を迎える歴史と伝統を誇る学校であります。いつまでも輝き続けてほしいと思う名誉会長様の心を大切にして、我々、農友会会員一同は、名誉会長様のご遺志を受け継ぎ、心を新たに農友会の発展に一層の努力を致す所存でございます。

山崎名誉会長様、これまで本当にありがとうございました。大変お世話になりました。どうか安らかに眠り下さい。

そして、我々をいつまでも見守って下さい。
生前いただいたご恩に厚くお礼を申し上げますとともに、心安らかな永遠の眠りをお祈りいたしまして、お別れの言葉とさせていただきます。

平成二二年一月五日

山崎文庫・山崎善弘さんのこと

図書部主任 岩尾 弘康

山崎善弘さんという方がいらっしゃいました。旧制福井農林学校農業科昭和一六年卒業の同窓生です。本校の同窓会組織である農友会の会長・名誉会長を長く務め、本校を物心両面から支えて下さった人です。図書館も多大な支援を受けました。

昭和三八年から七回にわたり寄付していただき、そのお金で農業や普通教科の専門書から文学全集、単行本など一、八三四冊もの図書を購入しました。現在の蔵書数が一万九、〇〇〇冊ということを考える

と実に一割を寄付していただいたということになります。寄付された本には「山崎文庫」というシールが貼ってあるので皆さんも利用していると思います。その一部は図書室入り口正面にある「山崎文庫」コーナーに配架しています。

このように多大なご支援をいただいた山崎さんですが、平成二二年一〇月にお亡くなりになりました。享年八六歳でした。生前のご支援に改めて感謝するとともにご冥福をお祈りしたいと思います。その山崎さんが平成二二年六月、まだお元気だった頃本校を訪ねてこられて、「生徒の皆さんに役立つ本や、楽しめる本を贈りたい」と、八回目のご寄付をくださいました。今、ご趣旨に沿うような専門書や娯楽書などの選定を行っています。購入次第配架したいと思いますので、皆さんもおおいに活用してほしいと思います。

(平成二三年三月「図書館だより」より)

●平成二三年度総会(六月一八日)

・記念講演

山岸 義昭氏(農高五回)

「ボランティアと趣味から学んだこと」

・懇親会実行委員長

和田 高枝氏(農高七回)

・アトラクション

母校郷土芸能(和太鼓演奏)

プロ歌手の有村せいじ氏(農高一七回)の

歌謡ショー

母校農産物お楽しみ抽選会

●平成二四年度総会(六月二三日)

・記念講演

有村 せいじ氏(農高一七回)

「夢・思いやり」

- ・懇親会実行委員長 川治 孝行氏（農高八回）
- ・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

プロ歌手の有村せいじ氏（農高一七回）の
歌謡ショー

母校農産物お楽しみ抽選会

豊田三郎画伯個展

場所・農友会会館「大地」

「豊田三郎の世界」

世界にはばたく ふるさとの画家 古里の山河を描く

洋画家 豊田 三郎氏（農林二七回卒）

●平成二五年度総会（六月二二日）

- ・記念講演 漫才 クレヨンいとう氏（農高四八回）吉本興業

本名 伊藤克矩氏 演題「お笑いで元気に」

- ・懇親会実行委員長 川村 正男氏（農高九回）

- ・アトラクション 母校郷土芸能（和太鼓演奏）

プロ歌手の有村せいじ氏（農高一七回）の

歌謡ショー

漫才 クレヨンいとう・山坊主

母校農産物お楽しみ抽選会



福井の山里に生まれ育った豊田三郎さんは、ふるさとに住み続け、一〇五歳の今日まで慣れ親しんだその山河を描き続けておられる。「杉の画家」と呼ばれるほど美山地区の山林を描写した作品は多く、さまざまな緑色を生み出す技術は、「トヨタグリーン」と称されるほどである。

豊田さんは一九〇八（明治四一）年生まれ。昭和三年に母校を卒業後、父から農林業技術を学んだが、画家になりたいという思いは強く、二四歳で上京し帝国美術学校（現・武蔵野美術大）に入学。終戦後帰郷し、五〇年から中学校の美術教員を一七年間務められた。

画業に専念したのは、妻が他界した後の八二年から。八〇歳となる八八年に代表作「黎明」（一〇〇号）を示現会展へ出品。以来、世界各地の美術展に要請出品を重ね、九二年制作の「澗」は世界芸術文化遺産に認定された。二〇〇二年には世界各国芸術交流活動の功績により「ユーラシアン・レガシー」の称号を贈られた。

地元への貢献も大きく、九八年に福井新聞文化賞功労賞を受賞、〇一年には美山町（現福井市）の名誉町民となっている。福井市役所美山総合支所には記念ギャラリー、収蔵庫が設けられているほか、同市

●創立二二〇周年記念式典（一一月二日）

- ・記念講演 ダニエル・カール氏

演題「オラの愛する元気な日本」

- ・「百二十年史」発行

- ・記念事業 視聴覚機器一式贈呈

- ・豊田三郎画伯 個展（豊田三郎の世界）

役所市民ホールにも豊田作品常設ギャラリーがある。一〇五歳のご高齢を迎えながらも、日々制作に精進され、美術の世界で今なお現役で活躍されている。

長い年月同じことを繰り返していると、つい気持ちが緩む。そんな時には「克己」という言葉を思い出し、自分自身に言い聞かせて気持ちを引き締めている。そうしなければ良い作品は描けない。「自分の絵は、まだまだ未完成、勉強が足らん、まだまだ絵を描きたいし、一〇歳までは死ねんな…」

最近、足腰が弱くなって歩くのが大変になってきたなど言いながらも、年齢を感じさせないバイタリティーあふれる姿と、長い白髪と白い髭からのぞく笑顔はとてもいい顔されておられる。いつまでもお元気で活躍されることと長生きを願い、毎年、敬老の日には農友会員の最長老となった先生の自宅に、農友会会長をはじめ校長・教頭が長寿のお祝いに訪問させていただいている。

まさに老体にムチ打ちながらだとは思うけれど。一〇五歳のご高齢を迎えても、日々制作に精進し、今なお、ご活躍されておられる先生には頭が下がる。

昨年、長年住み慣れた美山を離れ、越前市のケアハウスに移住、「食事など日常生活のことは考えず絵に集中できる。生涯で最高の境遇にいます」という環境で、新たな挑戦に取り組んでおられる豊田先生。一〇〇歳を機に着想し描き始めた杉の表情を一〇〇種類描くシリーズ「杉百態」現在は四十数点。完成まであと八〜九年はかかるとのこと。 「いやあ、まだまだ死ねません」とおっしゃる柔和な表情からは、芸術と共に歩んだ豊かな人生観がうかがえる。

○ 壮健・長寿の秘訣は

一人暮らしながら三度の食事はとり、規則正しい生活が自分に活力をくれている。

朝五時半起床、床の中で数分間の柔軟体操、神仏への礼拝のあと、朝食の準備。九時には自宅二階のアトリエへ入る。これを年中毎日基本日課としている。

毎年夏一カ月間、長女のいる八ヶ岳中央高原へ避暑をかね休養に行く。この楽しみも長生きの要因となっている。

○ 「克己」のこと

長い年月同じことを繰り返していると、つい気持ちが緩む。そんな時には「克己」という言葉を思い出し、自分自身に言い聞かせて気持ちを引き締めている。そうしなければ良い作品は描けない。「自分の絵は、まだまだ未完成、勉強が足らん」と謙そん。まさに老体にムチ打ちだ。

○ 近作

福井豪雨以来、現場へ出ても満足な風景が少なくなり、自宅畑でとれたカボチャ等を対象にした静物画の作成が多くなった。静物画では、画面へ余分な背景等を入れない「余白の美」の追求に取り組んでいる。

○ 世界各地への出展

洋画家豊田の名は世界に広まった。世界各地からの出展要請は増加傾向にある。

昨年フランスでの巨匠セザンヌ没後一〇〇年記念大展への特別出展要請があり多忙だった。現在、フランス画壇では「トヨダグリーン」と称して、豊田作品の美しい新緑の色彩が話題となっており、世界の洋画界に君臨する一人として美術出版社等の取材も多い。

○長年描かれた作品の数は？ また、その作品はどこにあるのか

数は自分でもわからない位多い。アトリエに保管してある絵は若い頃のものが多く人前には出せない。自分では八〇歳過ぎてからの作品が人様に観てもらえるものだと思うている。

作品は、買い上げていただいたものもあるが、各方面への寄付が多い。旧美山町へは一〇〇余点贈ったが、福井市は旧美山町役場（現 福井市美山総合支所）の三階を「豊田三郎ギャラリー」として開放し、常設展示して下さっている。

豊田先輩の年齢を感じさせないバイタリティーあふれる姿に、後輩の私達は圧倒される思いだが、また、長い白髪と白い髭からのぞく笑顔は世界にアピールするスマイルだ。

明治生まれの大先輩 万歳！

「豊田三郎画伯の世界」の絵画展を開催して

福井県農友会事務局

明治四一年生まれの豊田三郎画伯は数え歳で云えば本年一〇七歳の長老だ。

本校の卒業生一万四、〇〇〇余名のうち明治生まれの大先輩は唯一画伯一人となっている。

本校創立一二〇周年に参列され、かつ体育館での餅つきで元気に杵を振り上げ三回、四回と力強くつかれた。その光景には、同席した西川知事をはじめ多くの人達は嘩然とさせられた。

画伯の存在は私達同窓生の誇りであり、本校の名誉でもある。

農友会「大地」での「豊田三郎画伯の世界」絵画展では、画伯の近



作を含め迫力ある力作が展示され私達の目を楽しませて頂いた。

今回の絵画展は福井県農友会が母校一二〇周年記念協賛事業として開催したものであるが、

これだけ多くの力作を一同に展示し私達に公開していただいたことはこの上ない喜びであり貴重な機会であった。

画伯の作品にはそれぞれに魂が込められ、また、その作品には詩が添えられている。

画伯は文人である一面も備えられている。

かつて、詩人北原白秋に師事されたことがあり、画伯が詠まれた詩には高貴さが漂っている。

画伯の絵と詩を眺めていると画伯に描かれている光景が動画の如く目に映りつい作品の前で足が止まってしまふ。

現在、画伯が精力的に取り組んでおられる「杉百態」にも新鮮な魅力が感じられ、私達はその作品完成に強い期待を抱いている。併せて画伯のご健勝を願う続けるものである。

福井県農友会各支会・分会長表

25年6月22日現在

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No
福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	支会名
一乗	酒生	森田	棗	鶉	宮ノ下	東藤島	岡保	麻生津	河合	中藤島	社南	西藤島	啓蒙	円山	和田	旭	日之出	松本	宝永	春山	湊	みのり	木田	分会名
60	166	126	30	86	23	308	144	156	140	281	149	134	288	261	246	83	165	179	85	76	101	121	181	配付数
																							電話番号	
四一―二四一四	四一―二八〇二	五六―一四七五	八五―一七一	八三―〇二五六	五九―一三三四	五四―一三〇五二	五三―四一三七	三八―一三三二	五五―〇四八八	五四―七五六五	三六―三五三三	二四―八四一六	五四―六一八〇	五四―五八八五	二三―二九一二	二六―〇六四五	二四―五七五八	二三―一八〇八一	二一―六五三〇	二一―四六六六	二二―一〇八三	三五―〇二〇五	〇七七六―三六一三一九六	電話番号
吉川 正夫 (農高14)	牧野 順孝 (農高7)	渡辺 昭雄 (高志4)	浅川 洋幸 (農高8)	七部 裕昭 (農高13)	榊原 康夫 (農高12)	藤田 善孝 (農高8)	小木 昭良 (農高1)	藤川 晃 (高志3)	加藤 昭雄 (農高16)	安実 正嗣 (農高14)	富田 一夫 (高志4)	青山多実雄 (農高19)	道端 茂昭 (農高14)	竹内 正宏 (農高8)	清川 忠 (農高6)	荒川 和男 (農高14)	高村仁一郎 (農高3)	佐野 健司 (農高8)	田中 幸應 (農高13)	坪川 利男 (農高4)	高橋 武志 (農高8)	漆崎 矩男 (農高3)	川村 正男 (農高9)	支会・分会長名
九一〇―二二五二	九一〇―二二四一	九一〇―一〇三五	九一〇―一三二四六	九一〇―一三二一七	九一〇―一三二一一	九一〇―一〇八二六	九一八―八二二六	九一八―八一五四	九一〇―一〇八〇三	九一〇―一〇一〇二	九一八―八〇二五	九一〇―一〇〇三三	九一〇―一〇八四四	九一八―八二二一	九一八―八二三六	九一〇―一〇八五四	九一〇―一〇八五九	九一〇―一〇〇〇二	九一〇―一〇〇〇四	九一〇―一〇〇一八	九一〇―一〇〇二二	九一八―八〇二二	九一八―八一二二	郵便番号
福・安波賀町一―二〇	福・高尾町二―一四	福・上野本町新二―五	福・小幡町八―五七	福・浄土寺町一四―四	福・島山梨子町一―一三九	福・上中町二―三一	福・殿下町三六―三五	福・真木町一八―二三	福・河合鷲塚町三五―一三一	福・高柳三一―八	福・江守中一―三一〇	福・三郎丸一―六〇五	福・長本二―一	福・下中町六―三六六	福・和田中一―四〇四	福・御幸一―一八一―一七	福・日之出四―一二―二六	福・町屋三一―七七一	福・宝永三一―五一〇	福・田原一―一八	福・花月四―九一―一〇	福・花堂北二―五―一六	福・下馬一―一〇五	住 所

No	支会名	分会名	配付数	電話番号	支会・分会長名	郵便番号	住所
47	嶺南	嶺南	37	〇七七〇―二二二―〇六五	宮川 秀輝 (農高28)	九一四―〇一三五	敦・長谷四四―二三―一
46	福井	朝日	33	〇七八―三四―一九五六	前原 貞一 (農高10)	九一六―〇一三三	丹・越前町気比庄九―一一―四
45	福井	清水	206	九八一―五一―六七	野尻 脩 (農高7)	九一〇―三六二三	福・島寺町二―二
44	南条	南条	112	〇七八―二三―八四七六	中村 節夫 (農高2)	九一九―〇二三三	南・南越前町東大道三三―六一―五
43	坂井	坂井	81	七二―〇六七六	齊藤 健男 (農高14)	九一九―〇五三四	坂・坂井町清永二四―五一
42	坂井	春江	252	五一―一六七六	堀田 孝矩 (農高7)	九一九―〇四七六	坂・春江町針原三一―一四
41	坂井	丸岡	256	六六―七五三八	柴田 敏久 (農高8)	九一〇―〇三七四	坂・丸岡町北横地四〇―一六―二
40	あわら	金津	75	七三―二四二八	富田毅矩男 (農高8)	九一九―〇六三二	あ・指中三四―五二
39	あわら	芦原	50	七八―五〇四〇	土田 典男 (農高11)	九一〇―四一三八	あ・下番六一―一〇
38	坂井	三国	57	八二―四一二八	清水 洋助 (農高5)	九一三―〇〇六五	坂・三国町崎六二―一九
37	永平寺	上志比	114	六四―二六三七	多田 憲治 (農高14)	九一〇―一三〇四	吉・永平寺町吉峰七―五一―一
36	永平寺	永平寺	300	六三―三五八八	松倉 寛治 (農高7)	九一〇―一一二八	吉・永平寺町轟一〇―一八
35	永平寺	松岡	441	六一―一三二一	江守 秋光 (農高6)	九一〇―一一三四	吉・永平寺町松岡芝原一―〇〇
34	福井	美山	215	〇七八―七六―四五二八	小林 森幸 (高志2)	九一〇―一二二四	福・美山町三万谷二二―三六
33	鯖江	鯖江	289	〇七八―五二―〇二八七	山岸 義昭 (農高5)	九一六―〇〇三六	鯖・横越町二―一一―二
32	越前	武生	347	〇七八―二二―二九五三	井上 登 (併中1)	九一五―〇八六一	越・今宿町四―一五
31	奥越	勝山	157	〇七八―八八―二〇八九	中村 重夫 (農高6)	九一一―〇八〇四	勝・元町三一六―四六
30	奥越	大野	169	〇七八―六六―〇九五五	森永 茂樹 (農高9)	九二二―〇四〇三	大・森政領家二二―二五
29	福井	社西	55	三六―三八〇八	渡辺多右衛門 (農高12)	九一八―八〇四七	福・久喜津町七〇―四四
28	福井	東郷	178	四一―〇二六〇	宮谷 亨 (農高5)	九一〇―二一六三	福・栃泉町八六―二三
27	福井	六条	69	四一―一八二五	寺井 由治 (農高13)	九一八―八一三六	福・天王町二七―四〇
26	福井	文殊	114	三八―〇〇六六	徳長 則行 (農高14)	九一九―〇三三三	福・太田町一六―二八
25	福井	上文殊	93	四一―〇五八三	澤井 照男 (農高10)	九一九―〇三〇三	福・岩倉町八一―一

創立120周年記念における役員・各分会・企業からの協力者・企業名

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No
名誉会員	名誉会員	名誉会員	監事	監事	監事	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	会長	
林利二	酒井哲夫	田中正義	船谷重則	竹下正治	森本喜一	坂下貞雄	森木幸一	桶谷浩正	服部圭司	後藤久美子	黒川達巳	小川敏幸	土田弥市	斉藤恵治	森国茂治	青木和男	辻岡金一	森下定信	澤井照男	川村正男	伏里健治	増田外来士	小寺輝夫	氏名
農高2	高志3	農林39	農高12	農高11	農高10	農高11	農高20	農高20	農高33	農高19	農高19	農高19	農高18	農高18	農高16	農高15	農高15	農高12	農高10	農高9	農高9	農高5	農高15	卒回

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	No	
宮ノ下	東藤島	岡保	麻生津	河合	中藤島	社南	西藤島	和田	旭	日之出	松本	春山	湊	みのり	木田	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	名誉会員	名誉会員	名誉会員	
榊原康夫	藤田善孝	小木照良	藤川晃	加藤昭雄	安実正嗣	富田一夫	青山多実雄	清川忠	荒川和男	高村仁一郎	佐野健司	坪川利男	高橋武志	漆崎矩男	川村正男	秋田重敏	三上薫	小畑伝	吉田琴一	山本芳男	和田高枝	木村市助	峰吉勝博	氏名	
農高12	農高8	農高1	高志3	農高16	農高14	高志4	農高19	農高6	農高14	農高3	農高8	農高4	農高8	農高3	農高9	農高9	農高11	農高14	農高13	農高5	農高7	農高6	農高4	卒回	

69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	No			
和田	三笠商会	嶺南	朝日	清水	坂井	春江	丸岡	あわら	三国	永平寺	松岡	鯖江	武生	勝山	大野	東郷	六条	文珠	上文珠	鶉				
三崎裕二	坪川利男	宮川秀輝	前原貞一	野尻脩	斉藤健男	堀田孝矩	柴田敏久	富田毅矩男	清水洋助	松倉寛治	江守秋光	山岸義昭	井上登	中村重夫	森永茂樹	宮谷亨	寺井由治	徳長則行	澤井照男	七部裕昭	氏名			
農高4	農高4	農高28	農高10	農高7	農高14	農高7	農高8	農高8	農高5	農高7	農高6	農高5	併中1	農高6	農高9	農高5	農高13	農高14	農高10	農高13	卒回			

創立120周年記念における協力企業名一覧

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No
株式会社 道端組	森下組株式会社	三笠商会株式会社	株式会社 深谷	轟建設株式会社	東洋地工株式会社	第一技術開発株式会社	株式会社 タッセイ	坂川建設株式会社	清川メッキ工業株式会社	岡田造園建設株式会社	株式会社 エクシート	キセキ北陸株式会社	石黒建設株式会社	青木建設株式会社	会社名
道端茂昭	森下定信	坪川利男	岩佐淳司	天谷知昭	小寺輝夫	増田外来士	田中正義	坂川進	清川忠	岡田保	出口隆弘	土屋勝	斉藤孝夫	青木和男	代表取締役名

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	No
豊田三郎洋画家	福井市役所職域会	福井県庁職域会	J A 福井市	福井県森林組合連合会	株式会社 渡辺写真館	安本写真館	丸一調査設計株式会社	村上大理石株式会社	ジビル調査設計株式会社	エス・イ・コンサル株式会社	株式会社 福井近畿クボタ	西村建設株式会社	三坂住建株式会社	株式会社 辻広組	会社名
							高岡昌和	村上貞矩	毛利茂則	森国茂治	松田一郎	藤田正広	坂井茂昭	辻広三男	代表取締役名

瓢箪から駒



森 義夫

(農林四三回 昭和一八年卒)

この度 文化庁から瓢箪の研究家として賞を頂いたという新聞記事を見て伺いました。誠にめでとうございしました。瓢箪作り三〇年、大へん長い栽培の中で今までに受賞があつて当然だつたように思いました。

いや どういたしましたして この年齢になりながら賞を頂くなんて思ひもありませんでした。瓢箪の研究で結果を出したためでしょう。いくつになつても賞められるのは嬉しい限りです。愛瓢会という全国組織があり県支部、クラブと何千人もの会員がいて我々としては楽しく活動しています。更に広く普及されることを願っております。瓢箪から駒という諺があります。駒とも馬とも言われますが正にその通りで私も「三文の徳」を授かつたように思います。そのひとつは瓢箪の研究者ということ秋篠宮邸からお声がかか



り、殿下といろいろなお話し合いをすることができた事です。殿下も瓢箪作りに造詣が深く「アフリカには直径一メートルを越す瓢箪がある。日本でも巨大な瓢箪を研究しては。」と奨められました。それならということアフリカの瓢箪を元に作ったのがこの瓢箪で、馬鹿でかいですが丸型で瓢箪のイメージとは違います。腹にくびれがあるのが瓢箪の形ですね、それが巨大なカボチャを見るような感じですが。しかしこれを土台にして交配を重ねた結果巨大な瓢箪型の品種を作ることが出来ました。それがこの「大瓢エース」という品種です。二つ目は日本の瓢箪作りを説明するという事で台湾に招待された事です。国賓のような歓迎で最高級の乗用車に乗せられて台湾各地を見学させてもらい、外交官にでもなった気分でした。

三つ目は家の光協会から瓢箪作りの本を書いて欲しいという依頼で、「ひょうたん、へちま 栽培から加工まで」を書いた事です。これが版を重ねる度に印税も入り、とても有り難く思っております。この本を通じて全国各地の見ず知らずの人との交流もできました。生地に親しむ魅力は、学校での作物実習が根底にあると思っております。その事が農業試験場や県立短大での仕事に導いてくれたように思います。県立短大の時の「越のルビー」の育成もその延長でした。私は瓢箪作りにしても品種改良の方に興味があり、新品種が出来た時の喜びは格別で、今のバイオ研究所も品種改良が魅力で勤めています。月に



一回から二回福井農林へも研究のお手伝いに参ります。このように私が植物を人生の友としてゆく素地は福井農林の教育にあった事は間違いないと思います。日本一の巨大な瓢箪作りはこれからも老齢に鞭打ちながら続けたいと思っております。

「同級生だと言う人がたまたま会館に寄られての話題で、森さんは在学中からいろんな事に興味をもち「種播き器」を試作、今でいう「権兵衛」という播種器に遜色の無いものを作ったと新聞に出た話をされ、物作りは今に始まったことではない事を改めて知らされました。」珍しい瓢箪を見せていただいて心ほのぼのいたしました。著書もいただいて恐縮いたします。農友会に置いて会員のみなさんに普及の一助として大切に保管いたします。健康に気をつけられて益々のご研究をお祈りいたします。



秋篠宮邸にて

故郷は遠きにありて

名古屋市守山区 橋本 文應

(農高二回 昭和三〇年卒)

おはようございます。今日は貴方の探検に参りました。



動であったため、都合が重なり足早の退出となり失礼をしました。

私のふるさととは、越前海岸の国見、福井市と言っても海沿いの片田舎です。名古屋住まいも長くなり、「ふるさとの訛り」もすっかり忘れてしまいました。福井に帰ると「ふるさとの訛り」が懐かしく、幾つになってもふるさととは恋しいものです。

私は、不思議にも「母校の校歌や校則」を気に掛けながら育った一人であったと思っております。小学校は「元気で、素直に、根気良く」中学校では「振気、敬愛、剛健」でした。

そして、福井農林の校則は、訪問時、新築になった体育館で再確認した「明るく、正しく、一歩一歩大地を踏みしめて歩こう」を、改めて噛み締めているところです。

私は、卒業後の進路は、ひそか密に自衛

官と決めていました。田舎の三男坊と言う立場で有りましたから、一日も早く独立をしようという思いが強かったと振り返っております。當時としては、気概に燃え先陣を切ったからこそ、厳しい勤務環境も苦にならず、幹部昇進も比較的早く果せたと思っております。

自衛隊では、米・ソうごめく冷戦時、北方第一線で普通科連隊長の勤務を経験させていただきました、今も光榮に思っております。在職三十六年余、主権国家の独立と平和の護りに少なからず貢献できたものと、心静かに喜んでおります。

—緊張の連続が伺えます。

苦楽をともしした部下、縁結びを二〇組ほどまとめさせていただきました、夫婦の機微についても語り合いました。これも、三国町出身の女房の功に支えられての事ですが、それぞれ家族に会って夫々の幸せと成長した子供の笑顔を拝見するとき、仲人をして良かったとつくづく感じ、嬉しさ喜びに浸っております。

また、小学校五年生のとき大相撲の地方巡業を初めて見たのが病み付きとなり、相撲大好き人間の始まりとなりました。

今も相撲にかける夢は青春そのもので、充実した人生と自負しております。中でも一番の自慢は、現審判部長、元大関大麒麟と四〇年にわたる付き合いで、大関がまだ駆け出したころ偶然のキツカケで意気投合し、励ましあう仲となつて、名古屋場所では毎年、力士への「精神教育」を頼まれていることです。

名古屋福井県人会（会員四二〇名）の事務局長としては、恒例となっている「総会や懇親会、郷土訪問旅行、味覚の会、新年会」の諸行事を一手に取り切り、「ふるさと福井に思いをはせ、集いはしゃぐ会員の笑顔が楽しみ」で、我を忘れ七年が過ぎようとしております。

なお、会社勤めの傍ら、先年春から「愛・地球博ふるさと大使」の委嘱を受け、福井県に向かって広報活動中です。平成一七年三月二十五日から六ヶ月間、愛知で今世紀初めて開催される「二〇〇五年日本国際博覧会」には、是非見学にお越しください。心から歓迎しお待ちしております。

これからも、「福農卒を誇りとし、大地の精神を貫徹して」余生ある人生を楽しく過ごしたいと念じているところです。

ありがとうございました。来年の愛知万博で又元気で会いできることをお祈りします。

会報四九号から再録

菓子業界の発展を願って

西畑 二郎

（第二高併中 昭和二四年卒）



菓子業界に二十数年、菓子作りに努力されての叙勲おめでとうございます。新聞には昭和五〇年から福井菓子工業組合の理事から理事長として業界のリード役として活躍されましたとあり、そのご尽力、誠に敬服いたします。

ありがとうございます。私の菓子業として歩んで参りました事を書いてみました。よろしくご判読下さい。

私は菓子屋の跡取りとなった事で運命が決まりました。学卒後、丸岡の菓子店に見習いとして約五年間、友人は大学へ、又就職する友、それに比べて見習いとはこんなにつらいものかと何度逃げ帰ろうかと思つた事か、しかし縁があつて我慢が出来て、それなりに頑張つて家に帰ることができました。

婚家で二年位菓子作りをしてみたが、なにか物足りない事ばかりで「原点に帰つて」と思い東京の日本菓子専門学校で三年間学ぶ。人間はやる気になると変わるもので菓子に対しての私の考え方はすっかり変わり、自分ながらびっくりする位真剣になりました。「精神一統何事かならざらん」で他店に負けず、すべて商いとは勝ち組にならんと毎日が緊張づくめで大へんでした。

結局、これが菓子組合に入るきっかけとなつたわけです。丸岡菓子組合（春江、坂井、丸岡）の役員となり、県の菓子組合へ出入りする内に丸岡菓子組合長に選ばれ、県の理事にもなりました。

県の理事となつてからは自社の菓子造りと両立しなければ価値も權威も認められないので、その努力といつたら自分でもおかし位位励みました。

気がついた時、常任理事になつていました。その頃、組合事務所の手狭さに突当り、事務所を借りるのに県庁へ掛け合つたが相手にしてくれず、何回かの交渉の末やっと借りることができました。

借りたものの借りものは借りもの、やっぱり自力の事務所でなければならぬことを悟り「事務所建設」の情熱に燃えま



しかし、身分は副理事長で組合員からは、何の為の組合だ、もつと組合員が喜ぶ事、価値あるものと強く要望されました。

何かをやらねばと思い、経験はないが「菓子祭」のイメージが湧いて平成二年九月、ベルにて開催、これが大きく

成功し、組合員に還元することが出来ました。又金沢で三年後に全国菓子大博覧会を開くことも決められました。

これも成功させねばと組合員総力を挙げて頑張りたい、その為には福井の菓子組合が態勢作りをしようと、もう一度福井菓子祭を今度は全力投球でやる、それが大変に成功して前回の三〇%アップで驚く程の盛況でした。お蔭で金沢での「全菓博」に反映し、私も大会副会長として面目が上がりました。

大会の名誉総裁は、三笠宮殿下で奥方と共に大会初日に挨拶、テープカット、私も同じく晴れの舞台でのテープカットの光栄に浴しました。平成七年、念願の事務所建設が盛り上がり、何回かの会合の結果、委員長としての最後を飾る総仕上げを成し遂げました。

その後も引続き会長に止まることを要請されたが引際の大事さを覚えてきました。

あれからもう一〇年にもなりますが、菓子職人の誇りを結集できたのが私の大きな収穫であり今度の受賞につながったのではないかと喜んでおります。

ありがとうございます。歩まれてこられた「手記」を示されての



お話、ありがとうございます。
菓子作りに益々のご繁栄をお祈りしております。

「一に看病 二に菓」

加藤 澄子

(農高六回 昭和三五年卒)

この度の叙勲(瑞宝単光章)、おめで
とうございました。看護師としての身
近な人だけにとっても貴重な感動を受け
ました。



一に看病、二に菓と言われますが、

この三八年間患者との関わり合いを大切にしながら参りました。

看護師としての出発は小児科病棟を皮切りに、皮膚科・泌尿器科に
スタッフとして勤務し、その後は内科病棟、外科病棟等の師長として
一六年間、その後の八年間は看護部次長、部長として勤務し定年を迎
えました。

この間、患者さんとの関わりにおいては、真摯に接すれば心の通いあ
いがあり信頼関係が生れることを実感した日々であったと思っています。

また、人間対人間の関わりが重要であるこの仕事を続ける上で、自
分の専門職としての知識を得る努力の他に、人間性を磨くことの大切
さを痛感し、茶道・生け花を習い始めたのははじめ、主人と共に骨董
品をみて廻るなどしました。この仕事を続けていく限り、何か人前で
出来るものがなければと考えて一五年前に習い始めた吟舞は今も続け

ており、現在では私のストレス解消と適度な運動の機会となっており、
健康を維持していく上で欠かせないものとなっています。

新聞記者の取材の中に「死ぬことばかり言ってつらくないですか」
との患者との交流がありましたがとてもあたたかく感じました。

高齢化社会の介護は施設よりも家庭での生活を望み、在宅で家族に
看取られて死にたいと多くの方々が思っておられます。しかし、核家
族の多くなったこと、また男女協同社会になったことで、女性が働く
ことが多くなっている現状、とりわけ福井県は女性で働いている方が
多い県です。

長いこと、看護をしてきた経験から言いますと、どうしても女性が
仕事をやめないで、望む方には在宅で老後を過ごすことが出来るかを
考えていくことだと思います。私も義父を施設に入れていただいたこ
とで仕事を続けることが出来ました。しかし、義父は始め施設に入る
ことをとても嫌がり大変悩みました。でも施設に入れて貰えなかつた
ら私のような仕事は続けられ
なかつたでしょう。



今は、介護保険制度がだん
だん充実してきて、在宅で療
養が出来るようにと、訪問看
護・訪問介護が行われるようにな
りました。これにデイケア
やショートステイ等、色々な
サービスを組合せて利用して
在宅で過ごす方も多くなります。



また、同じ施設でも家庭的雰囲気を持ったグループホームも出来ております。

制度をよく調べておいて、その時期が来たときには幾つかの選択肢の中から、一番その家庭にあった方法を選ばれることをお勧めしたいですね。

高校時代は、当初バレエ部に席を置き毎日楽しんでおりましたが、その後は文芸部、演劇部に入部し、私なりに活動しておりました。

考えてみますと、この三つのクラブ活動は、何れもその後の人生に大きな影響を与えてきたと感じております。とりわけ感じますことは、どの活動においても生徒数の少ない学校でしたから、全員が全力で取り組まなければ結果が出せないという状況にありました。そのことで責任を持つてことに当たるといふ精神が養われたのではないかと思います。

身体を病むということは心も同時に病むものですが、真摯に向き合い、患者さんの琴線に触れる関わりが持てた時が看護師としてのやりがいであり、心から患者さんの幸せを自分の幸せとして感じる事が出来ました。

ただ、一筋に与えられた職務に忠実に仕事をして来ただけの私にとりましては、身に余る光栄であり恐縮しております。

ありがとうございました。

会報四九号から再録

ハンの木は生きている

楠 幸家

(高志四回 昭和二八年卒)

母校の文化祭にハンの木の写真を持参下さってありがとうございました。

お陰様で一寸と趣の変った、農村文化の香り高い展示ができて有意義な催しとなりました。



ハンの木が忘れられてゆく時、みんなに「そうだったね」といわれるのがとても嬉しいです。ハンの木は四季折々に一種独特の田園風景をかもし出し、潤いと安らぎを与えて人々の生業にも係わってきました。日本海側に稲架けハサギとして植えられ、新潟地方では一部観光用に残され、琵琶湖の湖北地方にもあった事が内藤又一郎さんの「ハンの木に魅せられて」の写真集でわかりました。



昭和36年、林町

打ちされて頂部が瘤となり、カラスの恰好の巣作りとなり、悪戯をして反撃をくった事もあります。

昭和四〇年代まで稲の収穫はアラレが降る一二月末までハサ掛けでした。又カワナニ



平成12年、丸山町

の棲む澄んだ小川の湿った土手とハンの木はゲンジボタルの生息環境に適しておりました。漆黒の一夜、兄弟姉妹がうち揃い麦藁で作った籠を手に菜種穀を振り回し、ハンの木の並木を縫いながら幽玄の光を川面に点滅させ群がる幾百、幾千のホタルを追って楽しんだものです。最近の若い世代の人達には想像できない、いや一日でもいいから見せてやりたい情景で

したね。ハンの木は日常生活にも関ってきました。春に選定された長枝は野菜棚の手になったり、柴として囲炉裏で燃やされたり、木目のない柔かい材質は高下駄の替歯に使われたりと貴重でした。又、「さんまい」での火葬用の薪にもなりました。

この様に物心両面で私の人生にも忘れられない懐かしい思い出の数々を残してくれました。それも大規模な土地改良事業と農作業の機械化などの変化でその役目を終えたとはいえ、あとかたもなく消えてしまっても残念です。農村風物詩が失くなり惜しいと思うのは私だけでしょうか。丸山町には未整理の所にいくらか残り、昔の名残りが残っています。

写真は昭和三五年頃から農村風景の一部として撮っていました。その中にこれは貴重な農村文化遺産ではないかと思える様になり現在も撮り続けております。今後はハンの木のルーツを探りたいと思っています。

写真は昭和三五年頃の風景だと言われましたが随分昔から撮られたのですね。

人物写真ならまだしも、こんなものをなぜ撮るかと思議がられましたが、今は変りましたね。いいものを残してくれたと。

福井県自然保護センターナチュラリスト誌に取材されて、皆さんに

大へん懐かしがられ好評だったようです。

ハンの木がこれ程に田に植えられたのは、根が真直に直下に伸びてゆく、横には伸びないのですと聞きましたか？

その通りです。横に伸びたら稲作の邪魔になります。昔の人はよく考えましたね。木の性質を知りつくしているという感じですね。

ハンの木の周囲はタニシ、フナ、コイ、ナマズ、ヘレンボ（ヒル）、アメンボ、ゲンゴロウ、ドジョウ、カワセミの住み家でもありました。自然との共生がありました。

写真を通じて読者に伝えたいことは？

今になってみると、なにより地元の人にハンの木の並木がここにあ

った事を知ってもらいたいと思つています。田んぼの一部にハンの木を植え、ミニ稲架木を復元しようという動きになれば申し分ないと思つています。

貴重な写真とハンの木への愛着談義、本当に有り難うございました。



昭和43年、新保町



平成13年、新保町 中央に国道416号線



昭和40年、新保町 福井県産業技術専門学院付近